

新しいタイプの定時制・通信制高校の設置に向けた検討事項

I 県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会で示した検討事項

論点 1 通信制サテライト校の教育体制に関すること
・・・第1回部会（6/6）・第2回部会（本日）
資料 2

〈基本的な考え方〉
本校（旭陵・刈谷東）を適正規模にダウンサイジングするには、できる限りサテライト校のみで学びを完結させる必要がある。

「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン」におけるサテライト校の記載

区分	サテライト校（イメージ）
スクーリング	週数回通学可能、本校のみで開講する科目は本校で受講
添削指導	サテライト校でスクーリングを実施する科目について添削指導する
試験	年2回（サテライト校で受講する科目）
単位認定	本校（旭陵・刈谷東）で行う

- [検討内容]
- 本校（旭陵・刈谷東）とサテライト校との面接指導（スクーリング）の実施割合
 - サテライト校へ平日に登校できる校内体制の整備
 - サテライト校でのスクーリングや平日の登校に対応した教職員の配置

論点 2 課程間の行き来に関すること
・・・第1回部会（6/6）・第2回部会（本日）
資料 3

〈基本的な考え方〉
全日制（単位制）、昼間定時制（単位制）、通信制（単位制）の間の行き来については、各課程の特色ある学びを尊重しつつ、生徒が自分のペースで学べる環境をつくる必要がある。

- [検討内容]
- 課程間の行き来を実現するためのカリキュラム構築や、単位認定のしくみなどの検討

- 論点 3** その他・・・第3回部会（9月）
- 不登校経験者や特別な支援が必要な者などに対応した入学者選抜のあり方についての検討

具体的な入学者選抜方法については、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議において改めて検討。
 - 市町村との連携のあり方についての検討

II 追加の検討事項

論点 4 設置形態に関すること・・・第1回部会（6/6）・第2回部会（本日）
第3回部会（9月）
資料 4

〈基本的な考え方〉
サテライト校について、設置形態を考える必要がある。

- [検討内容]
- 本校（旭陵・刈谷東）の分校とするか、サテライト校を設置する高校の課程の一つとするかの検討

(参考) 新しいタイプの定時制・通信制高校の設置について
(愛知県 定時制・通信制教育アップデートプランより抜粋)

1 **通信制のスクーリングを行うサテライト校** と **小規模の昼間定時制・単位制** を同じ学校内に設置（2025年4月開設）
⇒施設に余裕のある以下の高校に設置する ※地域バランスを考慮

海部	佐屋高校（愛西市）	知多	武豊高校（武豊町）
西三河	豊野高校（豊田市）	東三河	御津あおば高校（豊川市）

- ・現在の**全日制**を学年制から**単位制**へ改編
- ・定員 通信制 40人規模、昼間定時制 20人程度/学年

通信制 ⇔ 昼間定時制（単位制） ⇔ 全日制（単位制）

- ・原則、コース間の行き来を自由にし、自分のペースで学べる環境をつくる。
- ・添削指導のネット活用化、オンデマンドによる補習支援など、ICTを活用した通信制教育の充実。
- ・仮想空間「メタバース」、分身「アバター」を活用した「学びのVRネットワーク」で、人との関わりやコミュニケーションが苦手な生徒をサポート。

2 **旭陵高校の通信制**を適正規模へ**ダウンサイジング**
⇒通信制の**本校**に通学する生徒：320人/学年→2025年280人→最終的に240人へ

3 **刈谷東高校の昼間定時制・通信制**を適正規模へ**ダウンサイジング**
⇒昼間定時制：5学級/学年 → 2025年4月4学級 → 最終的に2～3学級へ
通信制の**本校**に通学する生徒：200人/学年→2025年160人→最終的に120人へ

4 **相談・就労支援体制の充実**
⇒スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの常駐化を検討

論点 1 通信制サテライト校の教育体制に関すること

第 1 回部会が出された検討項目	これまでに出された主な意見	対応 (案)																		
<p>1 本校（旭陵・刈谷東）とサテライト校との面接指導（スクーリング）の実施割合</p> <table border="1" data-bbox="189 646 863 772"> <tr> <td>A</td> <td>本校</td> <td>5</td> <td>:</td> <td>サテライト校</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>本校</td> <td>3</td> <td>:</td> <td>サテライト校</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>本校</td> <td>0</td> <td>:</td> <td>サテライト校</td> <td>10</td> </tr> </table>	A	本校	5	:	サテライト校	5	B	本校	3	:	サテライト校	7	C	本校	0	:	サテライト校	10	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が通う本校での現状を踏まえると、サテライト校でスクーリングを完結できるとよい。 本校のダウンサイジングの観点からも、スクーリングの実施割合を考える必要がある。 課程間の行き来を自由にするには、全日制・定時制・通信制の 3 課程が同じ校舎内で授業やスクーリングを受けられようにしたほうがよい。 不登校経験のある生徒にとっては、居住地の近隣でスクーリングが受けられるとよい。 	<p>通信制サテライト校の教育体制は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サテライト校で学校生活が完結する。 ○他課程の生徒と同様に、平日に登校する。 <p>を原則とする。</p> <p>この原則に基づき、各検討項目への対応は以下のとおりとする。</p>
A	本校	5	:	サテライト校	5															
B	本校	3	:	サテライト校	7															
C	本校	0	:	サテライト校	10															
<p>2 サテライト校へ平日に登校できる校内体制の整備</p> <table border="1" data-bbox="189 1129 863 1291"> <tr> <td>A</td> <td>平日にスクーリングと自習（質問等を含む）ができる教室を確保する</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>平日に自習（質問等を含む）ができる教室を確保する</td> </tr> </table>	A	平日にスクーリングと自習（質問等を含む）ができる教室を確保する	B	平日に自習（質問等を含む）ができる教室を確保する	<ul style="list-style-type: none"> 全日制・定時制・通信制の 3 課程を一体的に運用したいので、平日にスクーリングを実施したい。 全日制・定時制の生徒の併修を可能にするため、スクーリングは複数曜日の設定が望ましい。 平日のスクーリングは、全日制・定時制との間で教室の調整が必要になるため、頻度や曜日は各校ごとに設定したい。 	<p>1 面接指導（スクーリング）の実施割合 ⇒全てサテライト校で実施する。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学する生徒が分散するため、本校のダウンサイジングにつながる。 本校へ通学する必要がないため、生徒の通学負担が少なくなる。 <p>2 平日に登校できる校内体制の整備 ⇒教室等の調整を行い、平日にスクーリングを設定する。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> サテライト校の生徒が、平日に登校する機会が増えて、全日制・定時制の科目が選択しやすくなる。 全日制・定時制の教員の応援が得やすくなる。 														
A	平日にスクーリングと自習（質問等を含む）ができる教室を確保する																			
B	平日に自習（質問等を含む）ができる教室を確保する																			
<p>3 サテライト校でのスクーリングや平日の登校に対応した教職員の配置</p> <table border="1" data-bbox="189 1581 863 1785"> <tr> <td>A</td> <td>サテライト校に通信制の教職員を配置する</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>本校（旭陵・刈谷東）からサテライト校に教職員を配置する</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>通信制の教職員を基本としつつ、必要に応じ全日制・昼間定時制の教職員が応援する</td> </tr> </table>	A	サテライト校に通信制の教職員を配置する	B	本校（旭陵・刈谷東）からサテライト校に教職員を配置する	C	通信制の教職員を基本としつつ、必要に応じ全日制・昼間定時制の教職員が応援する	<ul style="list-style-type: none"> 本校からサテライト校へ教員を派遣（出張）することは難しい。 サテライト校に通信制の教職員を配置するとともに、3 課程の教員が協力して指導できる体制ができるとよい。 通信制のノウハウのある教員の配置が必要である。 	<p>3 サテライト校の教職員配置 ⇒サテライト校に通信制の教職員を配置する。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の配置により、しっかりとした計画的な指導ができる。 本校の教員に恒常的な負担をかけない。 												
A	サテライト校に通信制の教職員を配置する																			
B	本校（旭陵・刈谷東）からサテライト校に教職員を配置する																			
C	通信制の教職員を基本としつつ、必要に応じ全日制・昼間定時制の教職員が応援する																			

論点 2 課程間の行き来に関すること

第 1 回部会で出された検討項目	これまでに出了された主な意見	対応 (案)
<p>1 併修の積極的な活用</p> <p>全日制・定時制・通信制の課程間において、生徒自ら学びたい科目を選ぶことができるよう、併修が可能なカリキュラムと単位認定のしくみを構築する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><併修に関する法令等の規程></p> <p>(学校教育法施行規則)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日制、定時制、通信制いずれの課程間においても、自校又は他校における科目等の履修が可能 ・併修可能な単位数は 36 単位まで <p>(高等学校通信教育規程)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定通併修は上限単位数には定めはない <p>※卒業に必要な単位数は 74 単位以上</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・併修制度により定時制と通信制を組み合わせた多様な時間割がつけられるとよい。 ・学校は、他課程の科目選択ができるように、時間割・日程表を調整する必要がある。 ・履修する順番が決まっている科目が多く、どこまで併修できるか検討する必要がある。 ・併修する生徒が多くなることで、個々で単位の修得状況に違いが生じ、本人だけでなく教員もこれまで以上に生徒の修得状況に注意を払う必要が生じる。 ・中学校で不登校経験のある生徒にとっては、通信制に在籍し、併修を活用して週 2～3 日程度の登校となるようなニーズは高いと思われる。 	<p>佐屋・武豊・豊野・御津あおばの 4 校においては、各課程の生徒が、併修により、在籍する課程に関わらず、学びたい科目を受講できるようにする。また、生徒の事情に応じて、他の課程に転籍して学びを継続することもできるようにする。</p> <p>佐屋・武豊・豊野・御津あおば 4 校における転学・転籍の取扱いは、次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受け入れ可能人数は、学校の裁量とする。 ➢ 転学・転籍の回数及び時期は、生徒の希望を踏まえて校長が判断する。
<p>2 転学・転籍の弾力的な運用</p> <p>佐屋・武豊・豊野・御津あおばの 4 校に限り、転学・転籍の受け入れ可能人数、回数、時期、学年の制限を緩和する。</p> <p>併せて、年度末に 1 回としている単位認定についても弾力化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><転学・転籍に関する教育長通知></p> <p>(「異なる課程間における転学及び転籍の取扱いについて」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ可能数は、欠員数に加えて、当該課程間における当該学年の学級数と同数まで許可することができる。 ・転学又は転籍を認める時期は、学年はじめとする。 ・受け入れる学年は、当該生徒の修得単位に応じて、第 2 学年以上の相当学年に受け入れる。 <p>(「転学及び転科の取扱いについて」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校在学中、1 回に限り認めるものとする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・転学・転籍希望者が多数出ることが想定されるため、受け入れ可能な人数は、学校の裁量で決めたい。 ・全日制の専門学科と定時制・通信制の普通科の課程間異動は、単位認定をはじめ課題が多い。 ・行き来というコンセプトならば、複数回の転学・転籍を認めるべきである。 ・単位認定を年度内に複数回行うことは、その都度、評価についての作業が全教科に発生し、非常に煩雑になる。 ・通信制に転学・転籍する生徒の中には、校内の人間関係の不調が理由となっている場合もあることから、同じ高校の通信制にかわる際には、配慮が必要である。 	<p>なお、単位認定については、当面は現行と同様、年度末に 1 回とする。</p>

論点 4 設置形態に関すること

第 1 回部会	これまでに出された主な意見	対応（案）															
<p>サテライト校は、次の二つの設置形態が考えられる。</p> <p>1 本校（旭陵・刈谷東）の分校とする。</p> <p>(例)</p> <table border="1" data-bbox="240 604 928 877"> <thead> <tr> <th colspan="2">通信制</th> <th rowspan="2">全日制・昼間定時制</th> </tr> <tr> <th>本校</th> <th>分校（校舎）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">旭陵高校</td> <td>佐屋校舎</td> <td>佐屋高校</td> </tr> <tr> <td>武豊校舎</td> <td>武豊高校</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">刈谷東高校</td> <td>豊野校舎</td> <td>豊野高校</td> </tr> <tr> <td>御津あおば校舎</td> <td>御津あおば高校</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 サテライト校を設置する高校の課程の一つとする。</p> <p>(例)</p> <p>佐屋高校 全日制課程（単位制） 昼間定時制課程（単位制） 通信制課程（単位制）</p>	通信制		全日制・昼間定時制	本校	分校（校舎）	旭陵高校	佐屋校舎	佐屋高校	武豊校舎	武豊高校	刈谷東高校	豊野校舎	豊野高校	御津あおば校舎	御津あおば高校	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的には、通信制を課程の一つとしたいが、通信制の運営の経験がないことから、まずは分校として運営のノウハウを移植し、その後、課程の一つとしたらどうか。 ・開校年度に使用する教材は前年度に作成する必要があることから、設置形態にかかわらず、旭陵高校や刈谷東高校との協力体制が不可欠である。 ・分校とした場合、課程間で連携をとる際に、校長間の調整が必要となり、時間がかかってしまうため、課程の一つとした方がよい。 ・三つの課程が合同で学校行事を行うことを考えると、課程の一つとした方がよい。 	<p>分校ではなく、課程の一つとして設置する。</p> <div data-bbox="1976 667 2837 1163" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><参考> 2023 年 4 月に通信制課程の収容定員について、240 人以上との下限が撤廃された。</p> <p>高等学校通信教育規程（昭和 37 年文部省令第 32 号）</p> <p>旧第 4 条第 1 項 「実施校における通信制の課程に係る収容定員は、<u>240 人以上とする</u>。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りではない。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>新第 4 条第 1 項 「実施校における通信制の課程に係る収容定員は、<u>教員及び職員の数その他教職員組織、施設、設備等を踏まえ、適切に定めるものとする。</u>」</p> </div>
通信制		全日制・昼間定時制															
本校	分校（校舎）																
旭陵高校	佐屋校舎	佐屋高校															
	武豊校舎	武豊高校															
刈谷東高校	豊野校舎	豊野高校															
	御津あおば校舎	御津あおば高校															

設置校 4 校と旭陵・刈谷東の協力体制について

旭陵と刈谷東のそれぞれを中心とするグループを構築し、各グループにおいて、カリキュラムや教材の作成、添削及び面接指導、評価等の具体的な検討を進める。

◎旭陵グループ・・・旭陵、佐屋、武豊 ◎刈谷東グループ・・・刈谷東、豊野、御津あおば